

## 羽純さん追悼上映『みみをすます』

### 「ゆんみとサミー」

ゆんみは生まれたときから耳が聴こえない。聴導犬サミーはゆんみの大切な人生のパートナー。ゆんみの悩みや思いをサミーはいつも受け止めている。

### 「就職活動」

ゆんみは7年間アメリカに留学していた。その経験を生かし就職活動を始める。ゆんみの熱意を受け止め、障害者を区別せず採用する企業がゆんみを受け入れてくれることに。

### 「ロバの音楽座との出会い」

公園にサーカスのような大テントがやって来た。公演していたのは中世の古楽器集団・ロバの音楽座。ゆんみはリーダーのガリュウーさんに“わたしに音楽を教えて”と懇願する。こうして出会ったロバの音楽座のメンバーとゆんみは、音楽を通して交流を始める。

### 「谷川俊太郎さんとの出会い」

詩人のライブを見た。“おと”と“ことば”の遊びだった。お宅を訪問したゆんみを詩人は真正面から受け止める。詩人とゆんみは筆談で、音や言葉についていつまでも語り合う。詩人はゆんみに“みみをすます”という詩を贈る。ゆんみは思う。“音は心で感じるもの”

### 「森で」

ゆんみは森の夢を見た。森で野々歩と出会う。野々歩が森で歌う歌は、木の葉のざわめき、木漏れ日、生い茂る下草。もっと音楽を感じるために、ゆんみは野々歩の胸元に顔を埋め歌声が振動になって伝わるのを“聴く”。

### 「街」

音楽だ。私の音楽。ゆんみは吠えた。リズムも、歌詞も、強弱もなっていない。ゆんみの全細胞が歌うことに集中した。“声”という“こころの塊”が空へ向かって放たれた。

羽純さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

皆さん何気なく生活していると思いますが、その何気なさが幸せなんです！  
今、頭をかかえて悩んでる人、人生つまないなぁ~と思っている人、  
今までずーっと幸せじゃないってコトはないと思います！！  
それに今が幸せなんです！！

とにかく私が言いたいコトは自分や家族、他人の命は大切に！

羽 純

(平成17年11月2日のメールより)



### 羽純さんを応援して下さいましたみなさまへ

海外にて心臓臓器移植を行うために、シアトルのワシントン大学メディカルセンターに入院していた井口羽純さんは、4月2日午前5時(日本時間)にドナーが現れ、その後直ちに心臓移植手術をうけ、同日午後3時に手術は成功いたしました。

しかし、その後の容態の急変により午後6時 残念ながら、20歳の生涯を閉じました。

皆さまから温かな応援をたくさん頂き、ありがとうございました。

それにえようと最後まで一生懸命に病気と闘い続けた羽純さんを誇りに思います。

『羽純さんを救う会』への多大なるご支援ご協力誠にありがとうございました。

羽純さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

平成18年4月3日

『羽純さんを救う会』一同

### ご支援頂きました皆様へ

私たちの羽純さんが20才という短い人生を閉じたことを、謹んでご報告申し上げます。私たちは、この活動を始めて以来多くの方々のご声援に応えるためには羽純さんが、元気に日本に帰ってくることしかないという強い思いのみで今日までまいりました。しかし、その願いもむなしく残念な結果になり誠に申し訳ない気持ちでいっぱいです。

私と羽純さんはバスケットボールを通じた間柄でお互いに「オイ、羽純...」「オオおじさん」など男言葉の会話が普通でした。その羽純さんも大学生になり、とても女性らしくなればなる程に、恋しているのかな... お嫁に行って、早く子供を連れて来てほしいな... などと思ったりしたこともありました。しかし、それもはかなく散ってしまい本当に残念です。「おじさん元気だよ!! 頑張っているよ!!」という電話口での羽純さんの明るい声が耳に残っています。羽純さんは、皆さまの熱意に一生懸命に応えていました。今は天国で、「皆さん ありがとうございます!」とお礼を申し上げますと思っています。

最後に、長期間にわたってご支援ご協力を頂き曲りなりにも代表として会の運営を今日迄続けることが出来たこと、多くの皆さまの温かな善意に支えられてまいりましたことに、心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

平成18年4月3日

『羽純さんを救う会』事務局 代表 伊藤英彦

### 応援して下さいました皆さまへ

長い間、娘の羽純の為に声援ご協力を頂きまして本当にありがとうございました。

ラジオの収録で、「絶対移植を成功させて日本に帰ります」と強い意志を聞いた時は絶対に助かってほしい、かならず笑顔で帰って来てほしいとの思いでいっぱいでした。しかしながら、願いはかなわず20歳の短い生涯を閉じることになりました。

良い報告が出来ずに本当に残念ですが、『生きる』を目標に最後まで病気と闘い続けた娘の羽純を誇りに思います。

今日まで私たち家族を温かく支えて下さいましたことに心より感謝申し上げます。

平成18年4月3日

井口 浩